

# 四王堂・薬師金堂の発掘調査

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第三研究室長 林 正憲

1. 西大寺の創建と沿革
2. 四王堂の発掘調査（1986・2002年）
3. 薬師金堂の発掘調査（2006・2007年）
4. 食堂院の発掘調査（2006年）

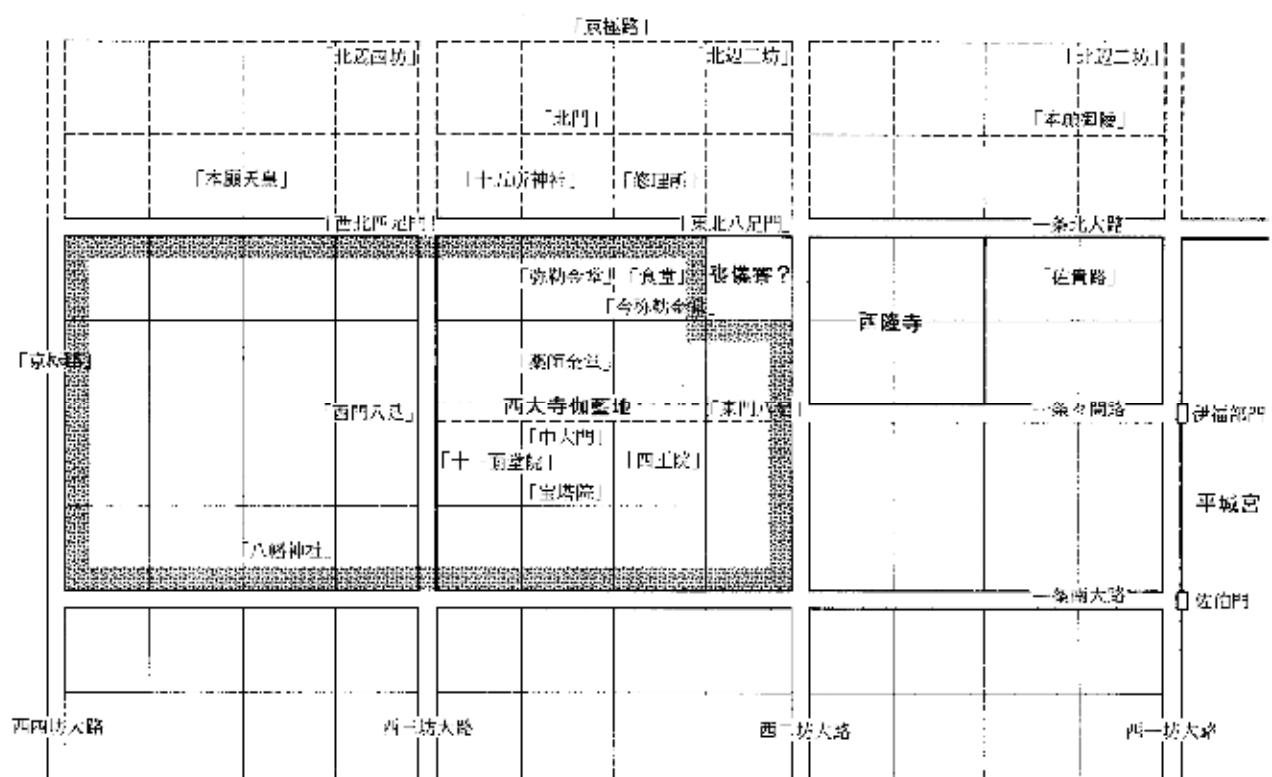


図1 西大寺と周辺条坊の状況

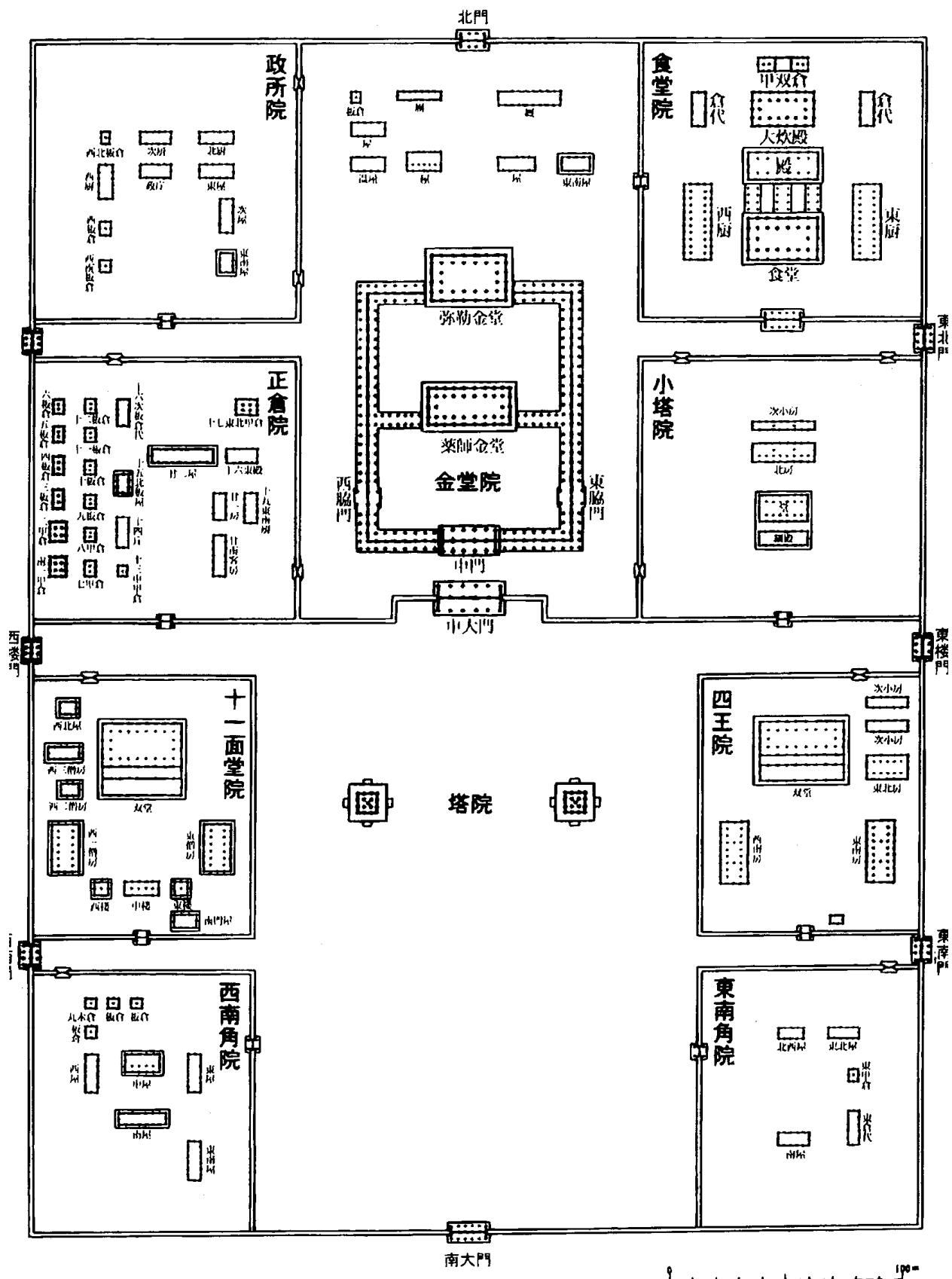


図2 西大寺伽藍・復元図

(宮本長治郎 1983 「奈良時代における大安寺・西大寺の造営」『日本古寺美術全集』第6巻を一部改変)

## 西大寺・略年表

764 (天平宝字8) 孝謙太上天皇、藤原仲麻呂の討伐を祈願して、金銅四天王像の造立を発願。

765 (天平神護1) 金銅四天王像の铸造と西大寺の造営を開始。

766 (天平神護2) 称徳天皇、西大寺に行幸

\* この頃までに四王堂完成か

767 (神護景雲1) 佐佐今毛人を造西大寺司長官に、六伴仲麻呂を同次官に任命。

769 (神護景雲3) 4月、称徳天皇、西大寺に行幸

\* この頃までに薬師金堂完成か

6月、弥勒淨土を作る。

\* 弥勒金堂の完成か

770 (宝亀1) 東塔の心礎を破却。

\* 東塔の設計変更（八角七重から四角五重へ）

772 (宝亀3) 西塔に落雷。

\* この頃までに両塔完成

780 (宝亀11) 『西大寺資財流記帳』の作成。

\* この頃までに伽藍全体が完成

846 (承和13) 薬師金堂か弥勒金堂のいずれかが焼失。 ← 薬師金堂か？

928 (延長6) 塔、落雷により焼失。 ← 西塔か

962 (応和2) 大風雨により食堂倒壊。

1106 (嘉承元) (弥勒) 金堂が大破したため、食堂に仏像を安置。

1118 (元永1) この頃までに創建期の建物は大破する。

1138 (保延4) 別当済円によって四王堂が再建される。

1140 (保延6) この頃、食堂（=弥勒金堂）と四王堂、塔1基のみ残る。

1206 (建永1) 東大門の造営。

1235 (文暦2) 敦尊が西大寺に入る。以後、西大寺の復興に努める。

\* この間、八角五重石塔・真言堂（現本堂の前身）・僧堂・宝生

護國院・護摩堂・西室が造営される

1290 (正応3) 敦尊、没する。

1307 (徳知2) 食堂（=弥勒金堂）が燈籠の火による火災で焼失。

1502 (文亀2) 兵火により四王堂中12、石塔8基、地藏院、東大門を焼し、他の諸堂ことごとく壊滅。

同年、光明真言堂の立柱（=復興の開始）。

1674 (延宝2) 四王堂再建。

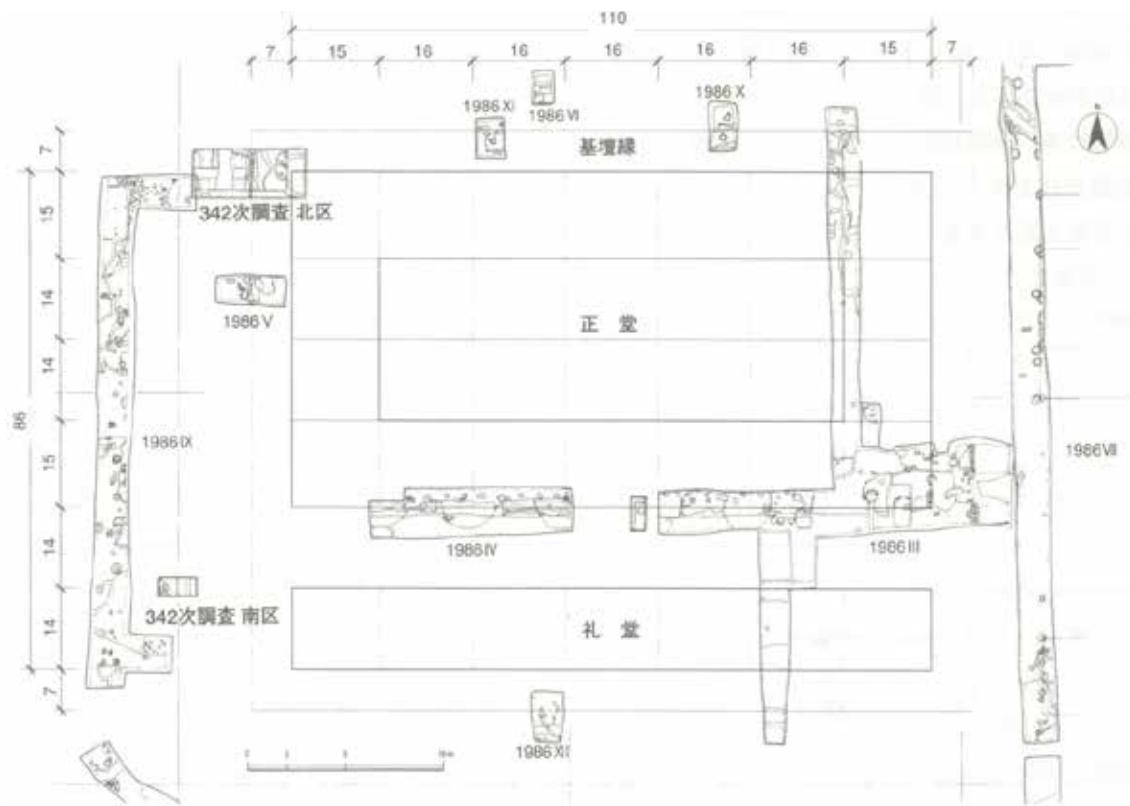


図3 四王堂の復元図

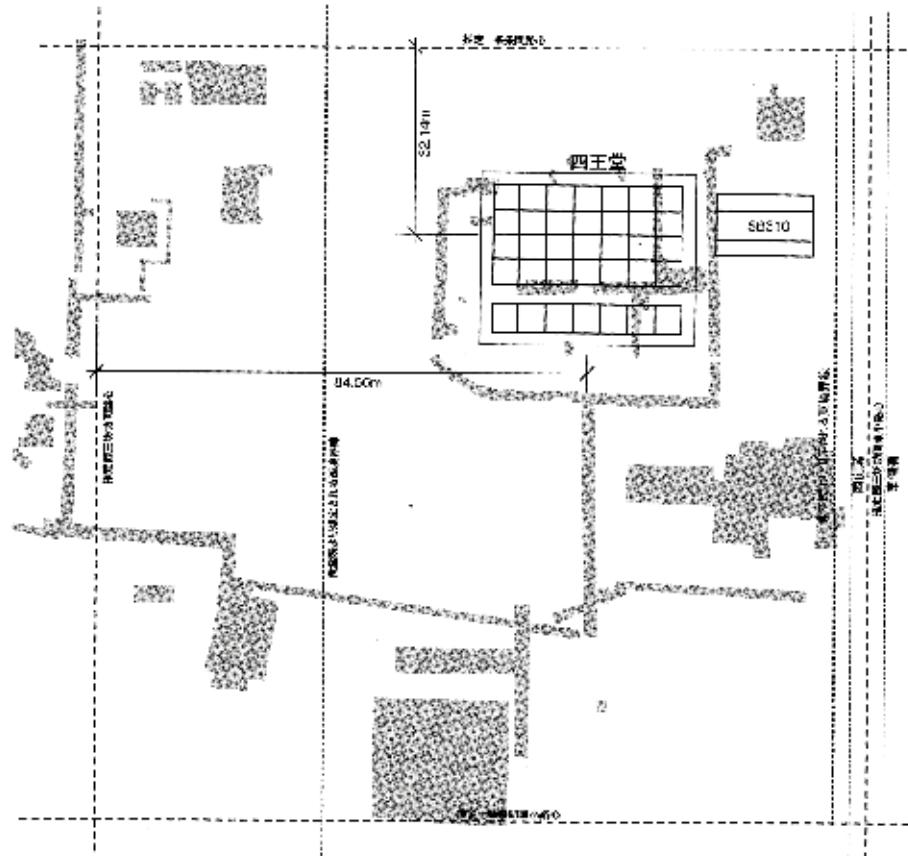


図4 四王堂配置復元図

(大林潤 2012「西大寺伽藍の造営過程に関する検討」『文化財論叢IV』より)

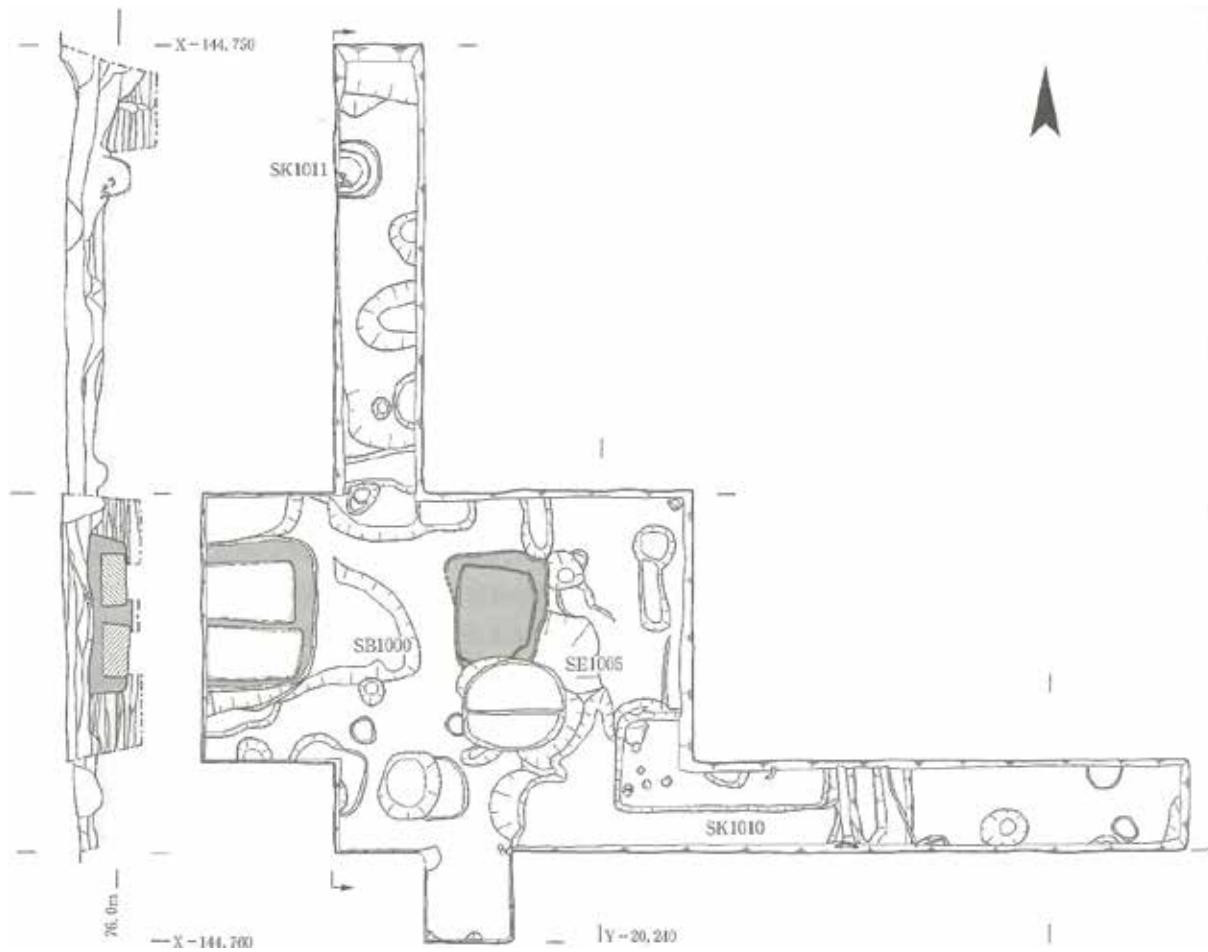


図5 第409次調査区平面図・断面図

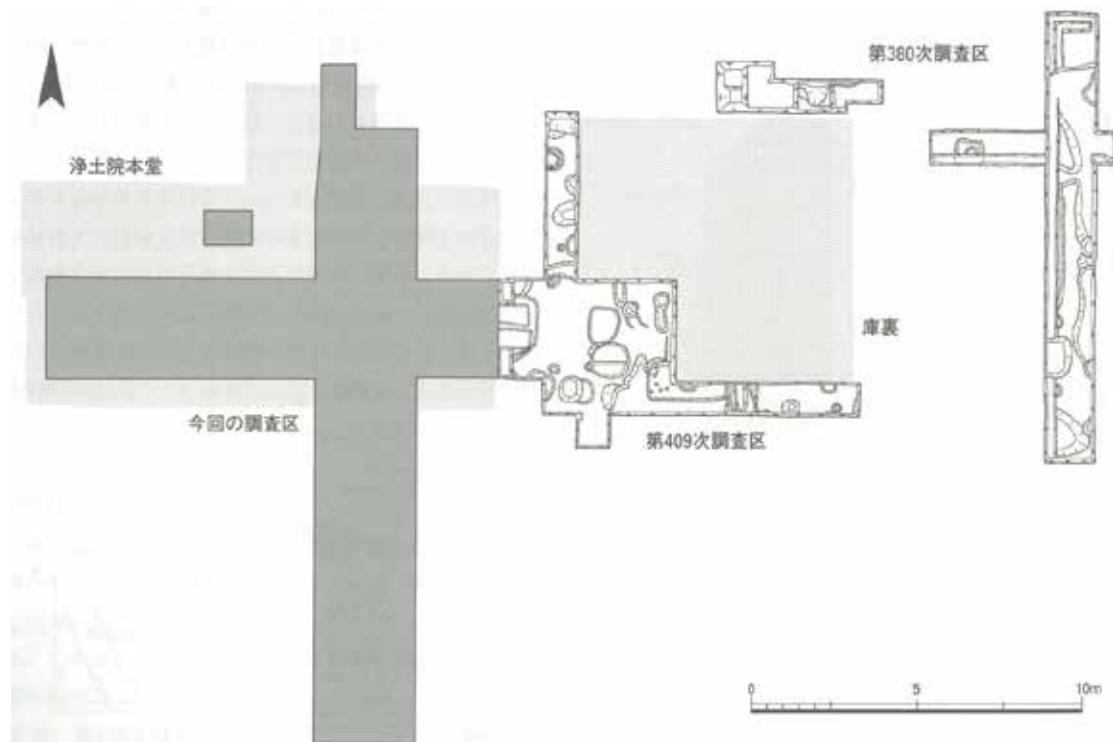


図6 第422次調査区位置図

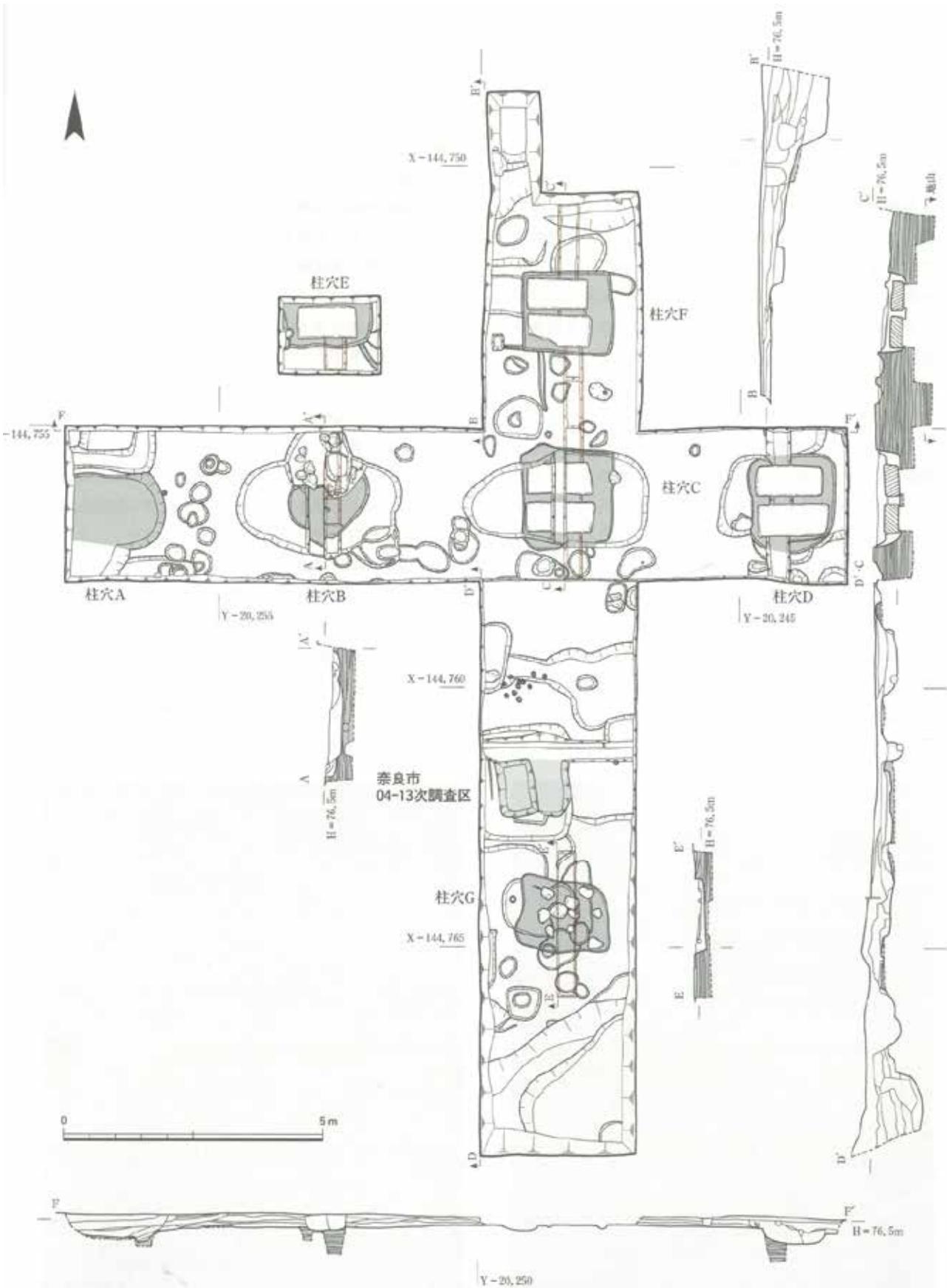


図7 第422次調査区平面図・断面図

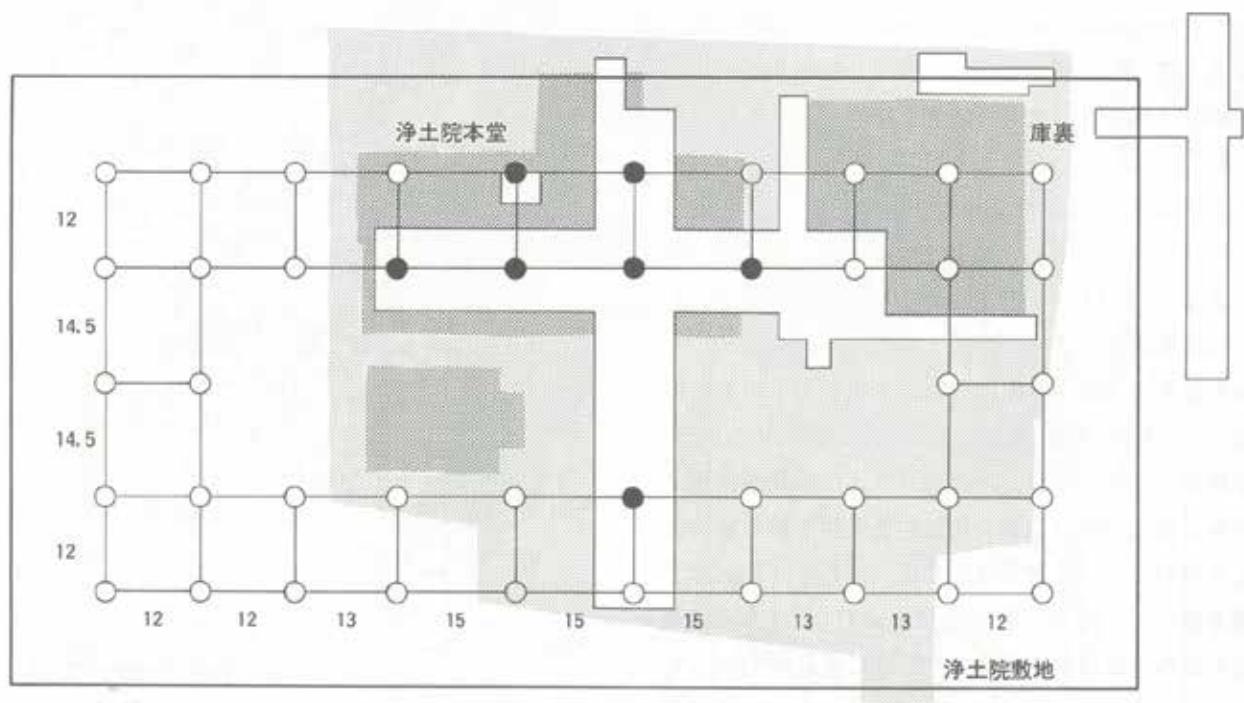


図8 薬師金堂復元図



図9 第404・410・415次調査区位置図

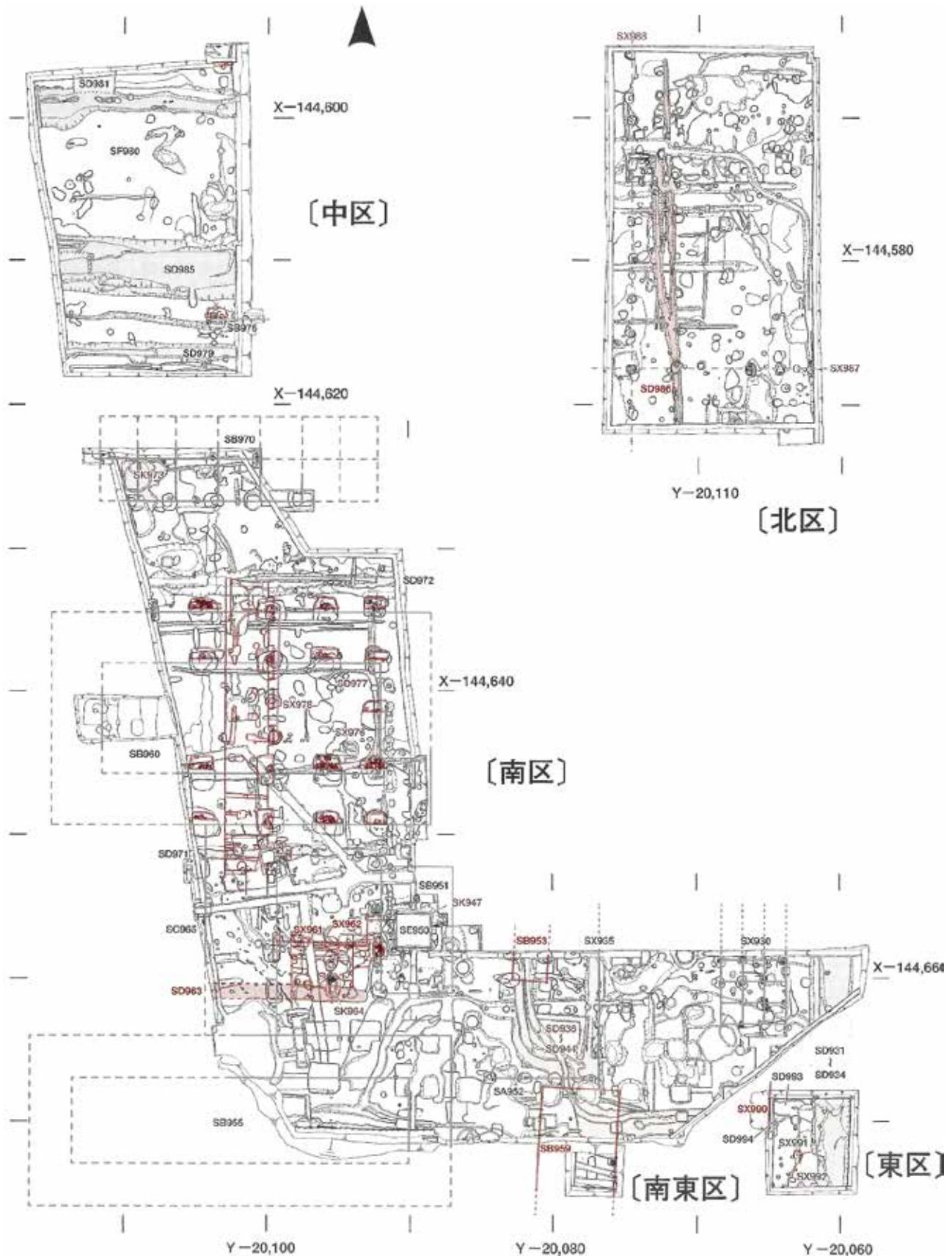


図 10 第 404・410・415 次調査区平面図